

感謝箱献金だより

ガリラヤのほとり 42 号

「5000 人もいる」

京都教区 主教 ステパノ高地 敬

昨年の宣教協議会からの「呼びかけ」の 3 番は、「世界の声に耳を傾けよう」で、その小さい見出しの一つ目は、「地球の命に仕える 教会ができる SDGs は?」と書かれています。SDGs は「持続可能な開発目標」と訳され、国連の MDGs「ミレニアム開発目標」(2001 年～2015 年)に続く 2030 年までのものです。MDGs は衛生、教育、平和、貧困などに関するもので、特に貧困撲滅などには、世界の運動としては珍しくとても成功したと言われます。それに続く SDGs も同じような目標が掲げられています。ただ、日本で SDGs と言われるときは、「気候変動」の問題のことだけ言っているようです。その他のことは途上国のことだと思ってしまうからなのでしょう。でも、この「気候変動」の問題も、私たちはどれほど自分のこととして受け止めているのでしょうか。

「人類」が生まれてから 30 万年ほど、人類は本当にゆっくりと進歩してきました。ですので、100 年先、1000 年先、生活の質が変わるとはだれも思っていませんでした。けれども、20 世紀半ば以降の技術の「発展」によって、「データの扱い、兵器の質、そして気候」が、たった数十年の間に大きく変わり、10 年先にどんな生活をしているか分からないという、歴史上初めての経験をしていると指摘されています。

この何年か、地球の平均気温が自然の変化以上の幅で上昇していることは、誰もが肌で感じている通りです。この夏はアラートが出て、「不要不急の外出は控えて」とまで言われましたし、洪水の被害がたくさん出ました。来年はどんなことになっているのでしょうか。いろんな対策が取られようとしています。私たちは「まだ大丈夫だろう」と何となく考えてしまっていないのでしょうか。



地球危機

聖書の中の「5000 人のパンの奇跡」では、イエスさまに求めることがあって、明日のことも分からないようなたくさんの方が集まりました。この 5000 という数字は奇跡を強調する数字と言うより、本当にいろんな人が集まっていたことを示しているのではないかと思います。体がしんどい人も気持ちがいんどい人もいろんな人がいて、イエスさまにおすがりして、それぞれの思いを持ちながらとにかく一緒にいて、一緒にみんなが食事した。そして少しホッとした。

「地球の命に仕える 教会ができる SDGs は?」と問われています。エアコンの普及している国で生活していると、エアコンもファン付き作業服もなく、ただひたすら暑さを耐え、海面上昇を恐れている人々のことをほとんど考えません。気候危機について特効薬はありませんが、地球には本当にいろんな人が生きていて、私たちと同じく求めることがある人たちなのだ、地球の上のどんな人たちとも共に神さまの恵みを受け取るのだと、イエスさまを通して伝えられ、促されておりました。

2024 年度 感謝箱献金 お献げ先 支援額

日本聖公会婦人会第 27 (定期) 総会后第 2 回会長会(2024 年 6 月 18.19 日)で決議されたお献げ先。

お献げ先の議案は 1 年毎に提出・審議され決定します。

お献げ先	支援内容	支援額	継続年数
リグリマ・ジャパン	バングラデシュの少数民族ガロの女性たちの地位向上、経済的自立、差別を無くし、弱者が安心して暮らせる社会を目指す活動を現地の「リグリマ・バングラデシュ」と共に支援。12 月末で活動を終了する。	40 万円	2010 年開始 15 年間
サイディア・フラハ	ケニアのキテンゲラ市にある児童養護施設及び教育プロジェクトのため。親の病気や死亡、極度の貧困のために育児放棄された子どもたちを保護・養育し、将来の自立のために教育や職業訓練を行っている。	40 万円	2014 年開始 11 年間
ムクウェゲ医師の 社会啓発活動の支援	RITA-Congo は、コンゴ民主共和国で長年、ムクウェゲ医師の活動を支援している。埋蔵資源を巡る紛争が絶えず、女性や子どもを性的暴力から守るための啓発活動を行っている。	20 万円	2023 年開始 2 年間
アトゥトゥ ミャンマー アトゥトゥの意味は 「共に、いっしょに」	2021 年 2 月の国軍のクーデター以来内戦状態が続き、技能実習生として来日者が増加。オンラインの「祈りの会」を中心にミャンマーの人々と共に歩む支援活動。	20 万円	2024 年開始 1 年間
中部教区 ELCC 国際子ども学校	フィリピンにルーツを持つ子どもたちのための学校。1988 年に名古屋学生青年センターが設立、運営。日本語や日本の学校に就学するため準備をする学校、居場所。外国人労働者として働く保護者は収入が安定せず、月謝を払うことが難しい状況がある。	20 万円	2003 年開始 21 年間
中部教区 NPO 法人 ワンタイム	長野県小布施にある新生病院は、カナダミッションの精神を受け継ぎ、バングラデシュとネパールで海外医療協力事業を実施している。今年も 5 月連休中に医師 3 名を派遣し、多くの人々の治療が行われた。	10 万円	2023 年開始 2 年間
東北教区 地域支援団体 釜石支援センター望	東日本大震災時、日本聖公会釜石支援センターとして活動した後、地域支援センターとして設立された。震災から 13 年目を迎え、高齢者支援の在り方も変化している。	10 万円	2017 年開始 8 年間
◇災害被災者・東日本大震災被災者支援積立金	国内外で災害が起きた時、祈りと共に、少しでも早く支援が届けられるように、資金を準備しておくことが必要。	30 万円	2023 年から 3 年間積み立てる。

アトウトウミャンマー

「ミャンマーを覚える祈り会」に参加して

井田涼子

2021 年 2 月 1 日、ミャンマーで国軍によるクーデターが発生。国軍は、民主化運動の指導者アウンサンスーチー氏が率いる国民民主連盟（NLD）の議員たちを一斉に拘束・監禁しました。これに抗議する学生たち、市民たちの非暴力のデモ隊に発砲し、多くの犠牲者を出しました。スーチー氏は有罪判決を受けて、今も拘束が続いています。

また、日本在住のミャンマーにルーツを持つ人々とその支援者が各地から東京に集まり、日本政府へ軍事政権に対して、抗議の意向を示すように訴えました。その声に応じるように、有志でオンラインによる「ミャンマーを覚える祈り会」が始められました。毎週続けられているその集会の中で、「更なる支援活動をしていこう」と志を与えられた賛同 140 の個人、団体により、2021 年 8 月 1 日「アトウトウミャンマー」を設立、献金によって活動を展開しています。

渡邊さゆり牧師（駒込平和教会牧師）とマキンサンサンアウン牧師（高槻バプテスト教会牧師）が共同代表、世話人の方々と共に多くのボランティアが支援活動に関わっておられます。現在、日本には多くのミャンマールーツの人々が生活しています。技能実習生・留学生も含め、約 9 万人が滞在。帰国を選ばず、日本での生活にも、困難を抱える人々への支援活動も行っています。

【ミャンマー国内のようす】

- ・民主化を求める人々は、少数民族の自治権拡大を求める武装勢力と共に国軍への抵抗を激化させている。
- ・軍の爆撃で家を焼かれた住民は、安全な場所へ避難するしかない。教会は人々の命を守るために一時的な避難所や食事を提供するなどの支援を続けている。その避難所も大雨で浸水し、備蓄していた食糧も水に浸かる被害を受けた。
- ・9 月初め、東シナ海で発生した大型台風 11 号（ヤギ）による大雨で大洪水が発生、家や田畑、学校などが泥水に浸かり多くの被害が発生した。そのような中でも軍の攻撃は続いている。
- ・今後、子どもたちへの感染症（マラリア、コレラ、デング熱など）が心配されている。
- ・ミャンマーの若者たちの選択。18 歳で徴兵制に応じるか、民主化を求めて戦うか。国外に脱出して難民となるか。
- ・日本語を学んで、将来のために資格や技術を身につけたい人もいる。
- ・ある神学校の先生は「明日の心配より、今どうするか考えられない」と話された言葉が心に残った。聖書から希望の言葉を伝える使命と目の前の現実はどう対処すればよいのかという思いと葛藤がそのまま、祈りとして伝わってきた。

ミャンマーに平和が実現し、命が守られるようにお祈りください。

☆「ミャンマーを覚える祈り会」へは誰でも参加できます。ホームページから「ミャンマーを覚える祈り会」へ。



バングラデシュの治安情勢について

リグリマ・ジャパン代表 上澤伸子

バングラデシュでは、今年 6 月に公務員採用の優遇枠に反対する学生たちのデモが勃発したのち、旧与党のシェイク・ハシナ首相が退陣し、8 月にはノーベル平和賞受賞者であるモハマド・ユヌス氏が、バングラデシュ暫定政権の首席顧問に就任しました。

現地ディレクターであるラブリー・ダゼルさんからは、激しいデモが行われていた 7 月末に、バングラデシュの情勢についてお祈りくださいというメールを受け取りました。ラブリーさんのお住まいは大規模デモの中心となったダッカ大学の近くにあるので、デモ隊と警察隊との衝突のようすや銃撃の音などが聞こえたそうです。また全国規模で外出禁止令が出されたため、人びとは不自由な生活を強いられていたようです。

ハシナ前首相率いるアワミ政権は独裁政権ではありましたが、少数民族やヒンドゥー教徒、女性などのマイノリティに比較的、配慮の篤い政策を行なっていました。その反動で、旧与党政権が倒れたとたんに、暴力の連鎖が少数民族へも飛び火するのではないかと心配でした。ラブリーさんにそのことを問いかけると、暫定政権はマイノリティ保護を継続していくとくり返し述べているし、村に住むガロの人たちも今のところ混乱はないと言っているので大丈夫だろうということでした。わたしの心配が杞憂に終わることを願っています。

リグリマ・ジャパンは 2024 年 12 月に日本の団体としての活動を終了するにあたって、今年 11 月に現地リグリマとの協力関係を解消する会を現地で開く予定でした。しかし現地の情勢が不安定になったため、現地での解散会はおそらく 2025 年 3 月ごろに実施することになると考えています。また 2025 年 5 月には、ラブリーさんの夫リトンさんが、横浜で開催される世界聖書協会総会に出席するにあたって、ラブリーさんも同行されるという話があります。今後の報告やイベントをぜひ楽しみにしててください。



ダイリパラ洪水 2024 年

サイディア・フラハ

～支援への感謝と最近のケニアの状況 荒川 克己

日本聖公会婦人会の皆さま、今年も多額のご寄付をありがとうございます。この円安でサイディア・フラハの運営が厳しいなか、とても勇気づけられ「これからも子どもたちのためにがんばろう」という気になります



終業式で・・・

【ケニアで大規模なデモ】 『ビヨンボ通信』 2024/7/5 より

6 月 25 日にケニアのナイロビにある国会で新しい税の法案が決議された。輸入税、クルマ税、土地税など、施行されると物価がますます上がることが予想されるため、ケニア全国から議案決議を阻

止しようと非常に多くの人々がデモに参加した。国会周辺では警察隊が乱入しないように固く守っていたが、デモ隊と警察隊が衝突し 20 名もの死者が出た。

サイディア・フラハのプロジェクトのあるキテンゲラ市でもデモがあり、デモ隊に乗じて強盗が商店街を襲い、一日中警官隊の銃声が聞こえていた。そのため、私たちの学校の児童たちは保護者が迎えに来るまで帰宅させることができなかった。

【ケニア政府を揺るがす Z 世代のデモについて】

今回のデモは政治家の名前は出ず、Z 世代の若者（18～27 歳の年代）たちが SNS を通じて呼びかけていることから、公安がデモを予想できなかった。彼らは政治家たちを信用していない。ケニアは 2002 年に民主化されたが、政治家たちは考え方が古く、汚職やコネなどが横行。インフレもひどく、政府は外国からの多くの負債を抱え、税金を上げようとする。

ケニアの人口構成は、日本と反対で若い世代の割合が大きい。SNS を自由に使う Z 世代は民主化後に育った世代であり、民主的な考え方をもち、汚職やコネなどを嫌う。この Z 世代の若者が大人の人口の半数以上を占めるが、若者の就職先が無い。政府への不満を SNS を使って連絡を取りあい、全国一斉にデモを行った。2027 年の大統領選挙で、今の政権は倒れるだろうが、そこに至るまでの道は困難を極めるだろう。



日本からの学生ボランティア

地域支援団体 釜石支援センター望「今までと、現状、これから」

代表 海老原祐治

釜石で活動を始めて 12 年が経ちました。日本聖公会いっしょに歩こうプロジェクトとして 2 年、支援センター望として 10 年。東日本大震災の被災者支援から始まり、現在は行政と連携した地域支援を行う団体として活動しています。コミュニティ形成と維持が求められる復興住宅や被災地域でのサロン・イベントの開催や介護予防活動、各種の相談援助業務などです。現在の状況はコロナ禍での活動自粛、サロンの担い手のボランティア不足、慢性的な資金不足などに苦しみながらも、月に 10～12 程度サロンを開催。



コロナ禍によりコミュニティの維持が困難になる、高齢化が進むなどの問題を抱えながら、ニーズはより高まっています。住民同士が



支え合う共助を豊かにし、被災者に寄り添っていきたいと考えています。日々の活動の中で、日聖婦の皆さまと共に被災地で活動するという思いは私にとって重要で大きな支えとなっています。

国際子ども学校 (ELCC) 25 周年記念ワークショップ」にコアスタッフが参加**みんなで考える外国につながる子どもたちの未来****～多文化共生社会の実現を求めて～****第 3 回: 子どもの権利条約と入管法** 講師: 横尾明親 (真宗大谷派僧侶・日本語教師)

多文化共生社会の実現は人権をベースとして

～国際子ども学校 25 年間の経験と創立 25 周年記念ワークショップの視点から～

日本政府に対する提言

- ・子どもの権利条約等の趣旨を十分尊重し、外国につながる子どもについて公立の小中学校への就学の保障を
- ・無認可の外国学校を含む多様な形態と方法による教育実践について学校教育相当として認定を
- ・教育制度や入管制度の人権をベースとした改革を可能にする、新たな枠組みの制定を

2023 年に 25 周年を迎えた国際子ども学校 (ELCC) の記念ワークショップに参加させていただきました。ELCC は、十分に就学の機会が与えられていない在日フィリピン人につながる子ども達の学校です。

2024 年 1 月 28 日に行われた回では、「子どもの権利条約と入管法」という難しいタイトルのワークショップでした。子どもの権利条約というのは、国家・文化・時代背景に関係なく、すべての子どもに適用されるのが原則です。日本の入管法にも多々問題があるようで、日本で生まれていないと在留資格が与えられないケースがあり進学や医療を受けられない子どもが大勢いる話を聞きました。日本では働き手が減少していく中、海外からの働き手に支えられていくことになる現状に、こうした外国につながる子供たちの学校教育を整備していかななくては、日本には魅力がなく外国人は来なくなる、又、日本は夢を持ちにくい国であるという記事の紹介がとても印象に残りました。

中尾由紀子

講義の中では、1947 年に発布された「外国人登録令」で、日本は朝鮮人を外国人としたことを教えていただきました。この時から何も変わらない日本で、名古屋入管のウィシュマさん死亡事件が発生したと思うと、我が国の人権政策と人権意識に改めて怒りを覚えました。

グループワークではメンバーの意見や活動をお聞きしましたが、ひとりの女子大学生が、毎月ボランティアで名古屋入管の収監者に面会に行っているという話に心を打たれました。私自身も身近にある人権問題を直視するとともに、ELCC の働きが今までと同様にこれからも神さまの見守りの中にあることを願っています。

中村節子

コア チャプレン からのメッセージ

「覚えておく」

司祭 アントニオ出口 崇（京都教区 下鴨基督教会）

能登半島地震で被害の大きかった奥能登地域で 9 月末に豪雨があり、甚大な被害が起きました。京都教区能登半島地震対策室が関わっている金沢の信徒さんも、豪雨直後は避難先の家から出ることが出来ず、少しずつ復興に向かっていたご自宅兼珠洲焼の窯元も、地震発生直後よりも大きな被害を受けました。「地震のあと、少しずつ前を向いていたのに、今回の豪雨で心が折れそうだ」という声もニュースで聞き、関わりある人たちのことを思うと複雑な気持ちになります。複雑な気持ちにはなりますが、これからも私たち一人ひとりに出来ることを少しずつ。関わりを持ち続けていきたいと思えます。

しばらくボランティアで京都を離れていると、幼稚園の保護者から「いなかったけど、どこへ行ってたん？」と聞かれることがあります。能登と答えるのですが、「何しに？」と震災が起こったことを忘れていて、忘れていた反応をされることがあります。私がたまたま関わっているから覚えているのであって、関わっていなければ同じように私も忘れていくかもしれません。

と同時に、世界で起きている様々な戦争、紛争、災害、不幸な出来事に関心を持っていない自分もいます。身近なことで精いっぱい、遠い国の出来事には関心を持つことがない。大小の差はあれ、私たち全員が持っている当然のことではないでしょうか。

以前、礼拝でウクライナのためお祈りをしました。サーバーがその祈りを読み上げてくださるのですが、そのサーバーはミャンマー人の青年でした。ミャンマーも軍部のクーデターにより、多くの生命が奪われ続けています。日本という土地でウクライナのために祈るミャンマーの青年、その時の状況、表情が忘れられません。色々なことを忘れて生きている私たちですが、このような活動報告や、誰かとの関わり、表情を通して、覚え、ともに祈ることが出来ればと思います。



感謝箱献金のいのり

神さま、今日もみ恵みの中で生かされていることを感謝いたします。

イエスさまはいつも、悲しんでいる人、苦しんでいる人と共に歩まれました。

私たちにもそのイエスさまの歩みに倣（なら）う心をお与えください。

私たちのこの献げものが、最も助けを必要としている人々のために用いられま
すように。

また、この人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください。

主イエス・キリストのみ名によって アーメン

感謝箱とわたし



聖公会神学院 2年

聖職候補生 アンデレ 川島創士



プロフィール

出身：長野県岡谷市

出身教会：岡谷聖バルナバ教会

経歴：高校までは競泳に本気で打ち込んでいました。

大学ではルターの神学やキリスト教死生学を学びました。大学院の修士課程から聖公会の神学を学び、現在は神学校とダブルスクールで博士課程でも学ばせていただいております。

趣味：神学校の近くのプールで泳ぐこと、ヴァイオリン、読書

婦人会の皆様の日頃のお祈りとお支えに心より感謝申し上げます。

神学校に入学させていただき今年で二年目になりました。在學生がいない中、寂しい思いもありますが、今年の夏は機会をいただき USPG(福音伝播協会)が主催する Emerging Leaders Academy に参加させていただきました。世界の中の聖公会の同世代の若者がいることに励まされると同時に、心の深いところにある思いを真剣に語り合うこともできました。これからは日本聖公会のみならず、世界の聖公会との繋がりも重要になってくることを実感させられた出来事でした。

さて、「感謝箱献金のいのり」には次のような文章があります。「人々との交わりを通して共に生きるものとならせてください」。ここでいう人々は、最も助けを必要としている人々であると思います。世界中の混乱や惨状を目の当たりにするとき、主の福音を疑い、共に紡いできた福音の言葉があるにもかかわらず、絶句してしまう自らの姿が明らかになります。常に自らを問い、国内外の状況に逆に問い返されながら、それでもある主の福音に信頼していきたいと思います。「交わりを通して共に」祈り、支え合うことの必要性を痛感しております。

これからも皆様の上に神様の限りない慰めと祝福がありますように、お祈り申し上げます。

編集後記

感謝箱献金…他教派に長く在籍していた私には耳慣れない言葉でしたが、印刷物の校正のお手伝いならできるかなと思い、軽い気持ちで事務局スタッフをさせていただくことにしました。一年が経ち、感謝箱献金はみなさんにとってとても大切なものであり、信仰の根幹につながるものであることを知りました。

ぜひ、みなさんの感謝箱への思いを聞かせてください。感謝箱の思い出、「ガリラヤのほitori」の感想等、どんなことでも結構です。写真等があればいっしょにお願いいたします。メールまたは郵送で、右記の感謝箱献金事務局までお送りください。お待ちしております(12月末べ切)。(中村節子)



日本聖公会婦人会感謝箱献金事務局

〒520-2331

滋賀県野洲市小篠原 847-6

井田涼子方

TEL/FAX 077-599-3728

Email suzuko@da2.so-net.ne.jp